

E-ward 2009年5月号

キーワード「婚活」

ここ最近話題の「婚活」とは就職の活動を「就活」というように、結婚活動の略語で、最近テレビや雑誌などの各メディアでも取り上げられ、2008年の流行語大賞にノミネートされました。そして「婚活」はアラフォーと呼ばれる(40代前後)世代から始まり、今では、20代前半でも活動されるようになりました。

昔のように適齢期に入ったらなんとなく結婚、親に勧められたからなんとなく結婚という考えは最近少なくなり、現代の日本では「婚活」をしなければ結婚できない時代になってきたようです。「婚活」をして、自分らしい結婚、最高に幸せだと実感できる結婚をしようとする方が増え結婚観が変化しつつあります。

「婚活」には大きく分けて2つあり、出会いを広げて、自分にあった相手を見つけること。いわゆる結婚相談所のようなエージェントで自分に合ったパートナーを探す。結婚相談所?ってびっくりされる方もいらっしゃると思いますが、出会い系コミュニティ等もこれの一種に当たり、もっと本格的にまじめなエージェントや、職業や年取等で制限があるエージェントも人気があるようです。

<ご興味のある方はE-cubeホームページをお読みください> <http://www.ecube.co.nz/>

E-cube6月号に掲載

NZのキャリアアップ・ライフスタイルマガジン



AmicaleNZ 荒川千秋社長



IELTSで広がる可能性

ニュージーランドの大学・専門学校では
コース入学準備に通常IELTSのポイントが設定されています。
亮さんの目標はまずは十分なポイントを取ること。
その後、興味があるスポーツジャーナリズムに関する勉強をし、
いずれ現場に立つことを夢みる。



IELTS、6.5ポイントが目標です。 酒井 亮

スポーツジャーナリズム
を目指して

NZ暮らしが始まったのは、今から約二年前、留学エージェントに留学を勧められたのがきっかけでした。その他、以前兄がNZにラグビー留学していたことや、10年前に海外旅行でNZに一度来たこともあり、英語習得よりもただ親しみのある土地に行ってみようという軽い気持ちだったんです。まずはオークランドの東フィティアンガにあるEvakonaという語学学校の一般英語コースで勉強を始めましたが、最初はもう聞くも話すもままならず、初級コースの基本から徹底的に学びました。来た頃は3か月位頑張っただけで日本に帰ろうと思っていたのですが、結局一年以上ここで過ごしアドバンスクラスまで行くことができました。しかし、ちょうど一年目力試しのつもIELTS(International English Language Testing System)を受けてたのですが、結果、自分の自信とは裏腹に全然駄目。英語学校の中では上位でも外では違うんだということに改めて感じ、ポリテクニクに進学することを考え始めたんです。選んだのはハミルトンにあるWaikato institute of Technology(Wintec)。実はここには僕の興味があるジャーナリズムコースがあり、とりあえずファウンデーションコースで必要なレベルを身に付けることからスタートしました。

Wintecから
AUT International Houseへ

僕はスポーツ、特にサッカーとラグビーが好きで、この感動を人に伝えたいという気持ちから、ジャーナリズムコースに興味を持ちました。ただ、言語を扱う分野だけに、このコースはほぼ100%ネイティブの学生で、留学生には非常に高いハードルとなっています。一般の人がいきなり新聞記事を書けと言われても書けないのに、それを母国語以外で書くというのですから当然のことです。そんなわけで学校からは、留学生なので通常1年のコースを3年通ってゆっくり学ぶのはどうかと勧められたのですが、それよりもとりあえずIELTSで高いポイントを取り、他のコースも視野にいれようと考えたんです。これまで漠然とスポーツジャーナリズムへの憧れを抱いていたのですが、実際ジャーナリズムと言っても非常に幅広く、だったら言葉に囚われない写真を勉強するのもいいかなと思い始めました。写真もジャーナリズムの一部ですし、その静止したたった一枚の写真からいろんなものを想像させ感動を与えられたらいいなと思っていましたので、情報の多いオークランドに移り、AUT(オークランド工科大学)のAUT International Houseという本科への準備コースに当たる英語学校でIELTSの勉強をすることにしたんです。



AUTでは独自の英語学習ソフトを持っており、自宅でも使用できるのがとても便利。視聴覚機器や施設の充実ぶりは規模の大きい学校ならではのことで。

2006年より、カナディアン・アカデミー・セタガヤからフィティアンガのEVAKONAへ留学。その後ハミルトンのWintecを経て、今年からAUT International HouseのIELTSコースで、ジャーナリズム関係のコースへ進学するため勉強中。



IELTSのコツ

イギリス圏ではとてもポピュラーな英語テストIELTSは、ジェネラルモジュールとアカデミックモジュールの2タイプがあります。ジェネラルは通常学業以外、例えば永住権の申請の際にも必要になり、大学や専門学校など英語で専門分野を学ぶ教育機関で定められているのはアカデミックのポイントです。どの学校に進学するにも、まずはこのポイントが入学の最低基準となります。日本ではTOEICが有名ですが、TOEICはマークシート式でリスニングとリーディングしかないので、IELTSは加えてライティング、スピーキングと全ての能力が試されます。アカデミックのほうでは、内容がかなり専門的なことになるので、どれだけボキャブラリーを増やしておくかが重要です。正しいスペルで、手を止め

ずに解答していつてちょうどテスト用紙が全部埋まるくらいの時間しかありませんから、やはりこのテクニックを覚える上で、IELTSコースを受ける受けないとは結果に大きな差が出るのではないかと思います。僕が受講しているAUT International HouseのIELTSコースの特徴は、進学を目指している学生ばかりなので士気が高く、先生も熱心です。家でスピーキングを録音し、学校で悪いところを直してもらおうという宿題もよく出されます。あと、AUT独自の英語学習ソフトで授業時間以外でもしっかり勉強できます。自宅でも使うこともできるので便利です。3月にIELTSを受ける予定なので、これで十分なポイントを獲得し、その後英語を気にせずに自分がやりたいことを勉強できればいいなと思っています。

ニュージーランド北島最北端



New Zealand photo by Ryo Sakai

ジョーク

grass (草)

●What is higher than a hill? (山よりも高いものは)

—The grass that grows on it. (山頂に生えている草)

<蛇足> 古典的ななぞの一つ。

猶、grass, grow, green, graze (草を食う)という語は、もとをたどれば同じ語源である。